科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 6 月 6 日現在

機関番号: 82610

研究種目: 基盤研究(B)(海外学術調查)

研究期間: 2015~2017 課題番号: 15H05289

研究課題名(和文)アジア・アフリカの開発途上国におけるウイルス肝炎対策に関する実態調査

研究課題名(英文)Survey on the measures against viral hepatitis in developing countries of Asia and Africa

研究代表者

正木 尚彦(MASAKI, NAOHIKO)

国立研究開発法人国立国際医療研究センター・その他部局等・臨床検査室医長

研究者番号:40219316

交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 12,400,000円

研究成果の概要(和文):アジア、アフリカの開発途上国5カ国を対象とし、B型、C型ウイルス肝炎患者に対する抗ウイルス療法の導入状況、保健衛生行政に関する実態調査を行った。B型に対する核酸アナログ製剤治療成績はベトナム、ネパールから、ペグインターフェロン治療成績はタイから報告されたが、HBsAg・HBcrAg定量や薬剤耐性変異の測定が現地では不可能であること、さらには薬剤アドヒアランスの確保が十分ではないなどの問題点が明らかになった。C型に対する経口剤治療については、ベトナム、エジプトから満足すべき著効率が報告されたが、ウイルス学的検査法の実施困難、治療の均てん化が程遠いなどの問題点が浮き彫りにされた。

研究成果の概要(英文): Our research group conducted clinical and socioepidemiological survey of the anti-viral therapy for the patients with chronic hepatitis B and C in five developing countries in Asia and Africa. The outcome of the nucleos(t)ide analogs (NUCs) therapy for hepatitis B virus (HBV) infection were reported from Vietnam and Nepal, and that of pegylated interferon therapy was from Thailand, where several issues such as inability to measure NUCs-resistant HBV as well as serum HBsAg and HBcrAg concentrations, together with insufficient adherence to NUCs, were demonstrated in those countries. As for the interferon-free directly-acting antivirals for chronic hepatitis C, satisfactory sustained virologic response rates were confirmed in Vietnam and Egypt. However, we also found the facts that virologic monitoring systems were not always available in these countries and the patients were far from the standardized medical treatments.

研究分野: 肝臓病学

キーワード: B型慢性肝炎 核酸アナログ製剤 薬剤耐性変異ウイルス C型慢性肝炎 DAAs

1.研究開始当初の背景

WHO の推定によると、現在全世界には B 型 肝炎ウイルスキャリアが 2.4 億人、C 型肝炎 ウイルスキャリアが 1.5 億人、合わせて 3.9 億人ものキャリアが存在する。しかも、その 大半が社会的・経済的課題を多く抱えたアジ ア・アフリカの開発途上国に集中しており、 肝炎ウイルス感染に起因する肝硬変、肝細胞 癌による死亡者数の増加に歯止めがかかっ ていない。これらの国の大半が社会情勢の不 安定性、極度の生活貧困に喘いでおり、健康 保険制度の不備も相俟って先進国ではすで に標準的となっている診断法・治療法の恩恵 に浴していない現状がある。申請者らは平成 19年~24年度の6年間、アジア(ベトナム、 タイ、ネパール、フィリピン、台湾、中国、 パキスタン、ウズベキスタン、インドネシア、 バングラデッシュ 〉、アフリカ(エジプト、 ケニア)を対象として、B型肝炎、C型肝炎 に関する疫学調査を実施した結果(国際医療 研究開発費 19 公 4、22 指 9) 1) B 型肝炎 に対する核酸アナログ製剤の後発医薬品が インド等で生産され、比較的安価なコストで 出回っていること、2)一方、C型肝炎に対 する高価なインターフェロン製剤について は、国策として治療を推進しているエジプト 以外の開発途上国では富裕層のみに限定し て使用されていること、3)診断・治療に欠 かせない遺伝子型、およびウイルス量の測定 が自国内で不可能な国が存在し、ガイドライ ンに則った診療が行われていないこと、等が 明らかとなった (「開発途上国における効率 的なウイルス肝炎対策のあり方に関する研 究(国際医療研究開発費22指9)」平成24年 度研究総括報告書)。さらに、4)これらの 開発途上国では健康保険制度が確立してお らず、治療薬の入手に際して、初回のみは医 師の処方箋が必要とされるが、それ以降は薬 局で実費購入が可能であり、その結果として 薬剤アドヒアランスが低下している可能性

が示唆された。

ところで、B 型肝炎に対する核酸アナログ 製剤にはラミブジン、アデホビル、エンテカ ビルに加えてテノホビルが本邦においても 上市されたところであるが、テノホビルは欧 米における長期の使用経験から6年間耐性ウ イルス出現率がほぼ皆無であること、かつ、 妊娠時の催奇形性が少なく、米国 FDA の基準 でも他の3剤がグレードCであるのに対し、 テノホビルはグレードBとより安全な位置づ けであること、等からウイルス学的モニター が不完全な開発途上国においてはむしろ好 ましい薬剤とも考えられる。研究代表者もネ パールにおける疫学研究から、テノホビルが ファーストライン薬剤として頻用されつつ あること、アドヒアランスが劣ると推定され る少数例を除いて、きわめて良好な抗ウイル ス効果を上げていることをすでに確認して いる(論文投稿中)。さらに、C 型肝炎治療 薬については、インターフェロン・フリーの 治療法としてC型肝炎ウイルスを直接破壊す る経口剤治療剤 (direct acting anti-virals: DAAs)が臨床応用されつつある。 歓迎すべきことに、欧米の製薬会社の中には グローバル戦略の一環としてきわめて安価 な後発医薬品の生産、開発途上国への提供を 許容する動きも見られることから、今後、ア ジア・アフリカの開発途上国においても多く の B 型・C 型肝炎患者の治療が可能になると 期待される。

2.研究の目的

本研究ではすでに構築し得た研究ネットワークを活用し、特に、当該国における新規抗ウイルス療法の導入状況、保健衛生行政に関する実態の解明を目的とする。具体的にはアジア(ベトナム、タイ、ネパール)、アフリカ(エジプト、ケニア)の5カ国をカウンターパートし、B型肝炎、C型肝炎治療介入の最新の実態を調査するとともに、当該国に

おける肝炎対策担当の行政部署、関連する専門学会等への聞き取り調査やアンケート調査を実施する予定である。

3.研究の方法

今回の海外調査では平成 19 年度 ~ 24 年度 に実施した先行研究以降におけるウイルス 肝炎治療介入の実態調査を主たる研究目的 とし、以下の内容を適宜検討する。

- 1) B 型・C 型肝炎患者におけるウイルス学的特性:カウンターパート国の中には本邦では稀な遺伝子型がメジャーを占める地域が多く含まれる。例えば、B 型肝炎では遺伝子型 D、Aa(ネパール:正木、Hepatol Res 2015)、B4(ベトナム:市村、J Med Virol 2011)、C型肝炎では遺伝子型 6a、1a(ベトナム:市村、J Med Virol 2010)、4(エジプト:田中、Liver International 2014)と異なっている。新規患者を追加し、その年次推移について検討する。
- 2)抗ウイルス療法の導入状況と治療効果: ウイルス学的モニターシステムの充実 度、使用薬剤の詳細・薬価、標準的治療 における患者の平均負担額、後発医薬品 の浸透度ならびに品質管理など。尚、 RT-PCR 法の現地導入が将来的にも困難 な場合には、ウイルス蛋白定量法、すな わち高感度 HBs 抗原定量法、HCV コア蛋 白定量法などが代替手段となりうるか 否かについても別途検討する。
- 3)薬剤耐性ウイルスの出現状況: B型では 核酸アナログ製剤、C型ではプロテアー ゼ阻害薬、NS5A阻害薬について、耐性ウ イルスの出現状況を経時的に検討する。
- 4) B型肝炎の再活性化の現状と対策に関す る調査:血液がん患者を対象にオカルト HBV に関するウイルス学的検討を行う。
- 5) 非専門医を対象としたアンケート調査: 肝炎ウイルスマーカーの測定状況、医療

連携の実態を明らかにする。

4. 研究成果

アジア(ベトナム、タイ、ネパール) アフリカ(エジプト、ケニア)のカウンターパート5カ国毎に研究成果を記載する。尚、ベトナムとケニアは市村班員(金沢大学) タイとエジプトは田中班員(名古屋市立大学) ネパールは正木班員(国立国際医療研究センター)が担当した。

1)カウンターパート国(ベトナム、タイ、 ネパール)で入手可能な肝炎ウイルスマーカ ー検査、抗ウイルス薬剤:

Agents	Japan	Nepal	Vietnam (NHTD)	Vietnam (rural)*	Thailand			
Lamivudine	0	0	Few	X	0			
Adefovir	0	0	Few	X	Own expense			
Entecavir	0	0	0	X	Own expense			
Tenofovir	0	0	0	X	0			
TAF	0	X		X	X			
Interferon	0	X	rare	X	0			
Peg-IFN	0	0	rare	X	0			
* Patients are sent to the central hospitas such as NHT								
HBV markers	Japan	Nepal	Vietnam (NHTD)	Vietnam (rural)#	Thailand			
HBV genotype	0	X	0	X	0			
HBV viral load	0	X	0	X	0			
IUCs-resistant HBV	0	X	0	X	X			

Survey in May. Availability of anti-HCV agents and HCV markers in developing countries							
Agents	Japan	Nepal	Vietnam (NHTD)	Vietnam (rural)ª	Thailand		
Interferon	0	X	X	X	0		
Peg-IFN	0	0	0	X	0		
Ribavirin	0	0	0	X	0		
DAAs	DCV/ASV, SOF/RBV, SOF/LDV, OMV/PPV/r, EBV/GZP, DCV/ASV/BCV	SOF/LDV, SOF/RBV	DCV, SOF, LDV, SOF/LDV	X	DCV#, SOF#, SOF/LDV		
"Patients are sent to the central hospitas such as NHTD. #Reimbursed							
HCV markers	Japan	Nepal	Vietnam (NHTD) ^b	Vietnam (rural) ^c	Thailand		
HCV viral load	0	X	0	x	0		
HCV serogroup	0	X	0	x	x		
HCV genotype	0	X	0	×	0		
Resistant test for HCV	0	X	x	x			
	^b FibroScan is available. ^c Anti-HCV Ab screening only.						
					Survey in May/		

2)ペトナム:

ハイフォン医科薬科大学病院で慢性 B 型肝炎(CHB)患者 170 名の追跡調査を行っている。CHB 患者の 97.7%は、抗ウイルス薬によく反応した。治療 12 ヵ月後、血漿 HBV DNAと HBe 抗原の陰転化率および ALT 正常化率は、

それぞれ 82.2%、31.4%および 74.7%であった。治療に失敗した2.3%のCHB患者では、薬剤耐性変異(PoI-RT遺伝子のL80I、L180M、A181T/V、and/or M204I)を伴ったウイルスの出現がみられた。テノホビル/ラミブジンおよびテノホビル/エンテカビルが一番有効であった。

ハノイ国立熱帯病病院において 2016 年に慢性 C 型肝炎と診断された患者 544 名 (男/女:407/137、中央年齢 44 歳、F4:25.5%、HCV ウイルス量中央値1.6×10⁶ IU/mI)の治療成績について遡及的に調査した。主な HCV 遺伝子型は、6型(49.6%)、1a(19.3%)、1b(12.7%)であり、主な DAAs レジメは、レディパスビル/ソフォスビル/リバビリン(71.4%)、ソフォスビル/Peg-IFN+リバビリン(13%)、ダクラタスビル/ソフォスビル±リバビリン(13%)、ダクラタスビル/ソフォスビル±リバビリン(12.4%)であった。DAAs レジメまたはHCV 遺伝子型にかかわらず、全体の SVR12 は98.6%であり、肝線維化の有意な改善が観察された(FibroScan スコア中央値:治療前8.7 kPa 治療終了後12週6.6 kPa)。

3)91:

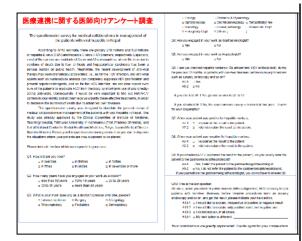
HBe 抗原陽性慢性肝炎に対する PEG-IFN 実施例のシリーズ検体を用いて、HB コア関連抗原(HBcrAg)及び HBs 抗原を測定した結果、HBcrAg は cccDNA とも相関し、かつ治療効果予測マーカーとして HBsAg 量と HBcrAg 量との組み合わせがきわめて有用であることを証明し、論文発表した(Clin Microbiol Infect 2018)。

HBV 関連マーカー (HBsAg, HBcrAg) や線維化マーカー (M2BPGi)、AFP などの測定により、B型肝炎関連肝癌の早期診断には AFP よりもM2BPGi が有用であることを見出した。

4)ネパール:

慢性 B 型肝炎データベースは計 70 例 NUCs 投与例 50 例)になったが、実に半数の 36 例 が Lost-to-f/u、海外へ移住 5 例(日本、米国、UK) CLD による死亡 5 例、経済的理由等で NUCs 自己中断例が 5 例などから、定期的な診療を受けている症例は 20 例弱で、B型肝疾患診療の困難性が明らかになった。

ネパールの肝臓病・消化器病を専門としな い医療者を対象としたアンケート調査票を 作成し、カトマンズ周辺の9病院へ配布した。 計 170 名における解析結果では、) 所属 科:内科/外科/小児科/救急科/皮膚科/ 耳鼻科/眼科/放射線科/産婦人科/病理 / 消化器科 / 検査部 / 泌尿器科 / リウマチ 科 / その他 = 78 名(45.9%) / 21 名(12.4%) /12名(7.1%)/9名(5.3%)/8名(4.7%) /6名(3.5%)/4名/4名/3名/3名/3 名/2 名/2 名/1 名/14 名)年齢分 布:20 歳代/30 歳代/40 歳代/50 歳代/60 歳代 / 70 歳代 = 37 名 (21.8%) / 75 名 (44.1%)/35名(20.6%)/16名/3名/) 経験年数:9年以下88名(51.8%) 3名 /10~19年56名(32.9%)/20~29年16 名(9.4%)/30~39年4名/40年以上3名) 1 年以内に肝炎ウイルスマーカー測定経 験あり 125 名(73.5%)) 陽性のみ説明 49 名(39.2%)/陽性+陰性両方を説明73 名(58.4%))陽性なら専門医へ紹介す る 105 名 (84%: 肝臓専門医3名、消化器専 門医4名含む))将来の方針:陽性のみ 説明 43 名 / 陽性 + 陰性両方説明 79 名。2013 年に NHO 肝疾患ネットワークで実施したわが 国の同様の調査に比較して陽性、陰性結果の 説明率は97.6%、58.4%と非常に高率であっ たが、これは比較的若年の医療者が多く最新 の知識を有しているためと推定している。ア ンケート調査自体が好ましい行動変容をも たらした可能性がある。



抗 HCV 薬 (2018 年現在): Interferon Alfa 2a & 2b, Ribavirin, Sofosbuvir, Ledipasvir, Daclatasvir, Velpatasvir, Voxilaprevirが 使用されているが、本研究ではその治療実態 の詳細を検討できなかった。

5)エジプト:

2015 年 7 月 20 日から 1 週間 、Suez Canal University の Prof. Mostafa Mohamed Ragheb Gade Imoula を名古屋市立大学へ招聘し、エジプトにおける HCV 感染の現状と抗 HCV 療法の最新情報を収集し検討を行い、以下の研究結果であった。

-) HCV 陽性率は減少傾向(8.5%から 7.3%)。
-) 90%以上が genotype 4 に感染。
-)2015年4月から新規の抗HCV治療が開始された。PEG-IFN+RBV+SOF 12W for IFN-eligible patients; SOF+SMV 12W for IFN-ineligible patients; SOF+RBV 24W for organ transplant cases などが適応。対象:18-70歳、慢性肝炎~代償性肝硬変。除外基準: Child B & C, 血小板 5万/μL未満、腹水、肝癌、血清 Cr>2.5 mg/dL, 妊婦、コントロール不良の糖尿病(HbA1c>8)。

HBsAg 陰性 HBc 抗体陽性の血液がん患者 54 名を対象にウイルス学的特徴を検討した。23 名 (42.6%)で HBV-DNA を検出し、S 領域に特異的な変異(P120T、S143L)を同定した(World J Hepatol 2017)。

6)ケニア:

ナイロビの血液銀行との共同研究で、現地で HCV 抗体 (Murex anti-HCV version 4.0)陽 性者 100 名を PHA で再スクリーニングしたと ころ、16 名が陽性(残りは偽陽性)であった。 PCR 法での検討で、うち 10 名 (10%)のみウ イルス血症を有することが判明した。ゲノタ イプは 1a 10%、2b 90%で後者がメジャーで あった (Arch Virol 2016)。

5 . 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者に は下線)

〔雑誌論文〕(計 8 件)

1. <u>Masaki N</u>, Shrestha PK, Nishimura S, Ito K, <u>Sugiyama M</u>, Mizokami M.

Use of nucleoside analogs in patients with chronic hepatitis B in Nepal: A prospective cohort study in a single hospital. Hepatol Res 2015; 45(12): 1163- 1169.

2. Kibaya RM, Lihana RW, Kiptoo M, Songok EM, Ng'ang'a Z, Osman S, Ishizaki A, Bi X, Okoth FA, <u>Ichimura H</u> and Lwembe RM.

Characterization of HBV among HBV/HIV-1 co-infected injecting drug users from Mombasa, Kenya. Current HIV Res 2015; 13(4): 292-299.

3. Mwangi J, Nganga Z, Mpoke S, Lihana R, Kinyua J, Lagat N, Muriuki J, LLei R, Kageha S, Osman S, <u>Ichimura H</u>.

Hepatitis C virus genotypes in Kenya. Arch Virol 2016; 16(1), 95-101.

4. Pham HV, Ishizaki A, Nguyen CH, Saina MC, Hoan HT, Tran VT, Bi X, PhamTV, and Ichimura H.

Change in the prevalence of HIV-1 and the rate of transmitted drug-resistant HIV-1 in Haiphong, Northern Vietnam. AIDS Res Hum Retroviruses 2015; 31(7): 757-759.

5. Chuaypen N, Posuwan N, Payungporn S,

<u>Tanaka Y</u>, Shinkai N, <u>Poovorawan Y</u>, Tangkiiyanich P.

Serum hepatitis B core-related antigen as a treatment predictor of pegylated interferon in patients with HBeAg-positive chronic hepatitis B. Liver International 2016; 36(6): 827-836.

6. Elkady A, Iijima S, Aboulfotuh S, Mostafa Ali E, Sayed D, Abdel-Aziz NM, Ali AM, Murakami S, Isogawa M, <u>Tanaka Y</u>. Characteristics of escape mutations from occult hepatitis B virus infected patients with hematological malignancies in South Egypt. World J Hepatol 2017; 9(9): 477-486.

7. Chuaypen N, <u>Posuwan N</u>,
Chittmittraprap S, Hirankarn N,
Treeprasertsuk S, <u>Tanaka Y</u>, Shinkai N,
<u>Poovorawan Y</u>, Tangkijvanich P.

Predictive role of serum HBsAg and HBcrAg kinetics in patients with HBeAg-negative chronic hepatitis B receiving pegylated interferon-based therapy. Clin Microbiol Infect 2018; 24(3): 306.e7-306.e13.

8. Ishizaki A, Tran VT, <u>Nguyen CH</u>, Tanimoto T, Hoang HTT, Pham HV, Phan CTT, Bi X, Pham TV, Ichimura H.

Discrepancies in prevalence trends for HIV, hepatitis B virus, and hepatitis C virus in Haiphong, Vietnam from 2007 to 2012. PLos One 2017; 12(6): e0179616.

[学会発表](計 5 件)

[図書](計 0 件)

[産業財産権]

出願状況(計 0 件) 取得状況(計 0 件)

〔その他〕 ホームページ等: 金沢大学医薬保健研究域医学系ウイルス 感染症制御学研究分野ホームページ

http://virus.w3.kanazawa-u.ac.jp

6.研究組織

(1)研究代表者:正木尚彦

所属:国立国際医療研究センター 研究者番号:40219316

(2)研究分担者:

・市村 宏

所属:金沢大学ウイルス感染症制御学

研究者番号:10264756

・田中 靖人

所属:名古屋市立大学病態医科学

研究者番号:90336694

(3)連携研究者:

・杉山 真也

所属:国立国際医療研究センター肝炎・

免疫研究センター 研究者番号:20612427

(4)研究協力者:

・村上 周子

所属: 名古屋市立大学病態医科学

研究者番号:50454848

· Pradeep Shrestha

所属:Tribhuvan 大学 Teaching Hospital

· Yong Poovorawan

所属: Chulalongkorn University 大学

· Nawarat Posuwan

所属:Chulalongkorn University大学

· Mostafa Mohamed Ragheb 所属: Suez Canal 大学

· Pham Van Thuc

所属: Haiphong 医科薬科大学

· Nguyen Hung Cuong

所属: Haiphong 医科薬科大学